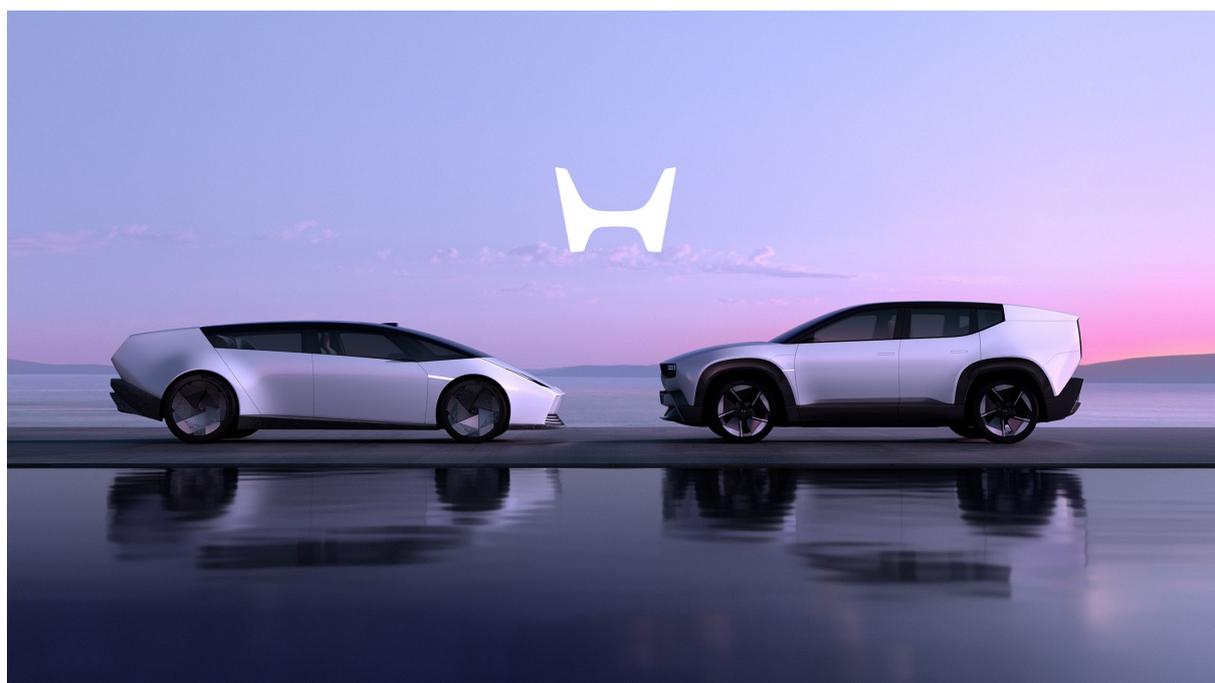


2025年1月8日

「Honda 0 SALOON」、「Honda 0 SUV」を CES 2025 で世界初公開 ～Honda 独自のビークル OS 「ASIMO OS」を搭載～

- 「Honda 0（ゼロ）シリーズ」の「Honda 0 SALOON」、「Honda 0 SUV」のプロトタイプを世界初公開
- Honda 0 シリーズに搭載する独自のビークル OS 「ASIMO OS」を発表
- Honda 0 シリーズを通じて自動運転レベル 3（アイズオフ）をスピーディーにグローバルへ拡大。世界に先駆けて全域アイズオフを実現し、移動の新たな可能性を切り開く
- ルネサス エレクトロニクス株式会社と 2020 年代後半に投入する次世代の Honda 0 シリーズに採用する高性能 SoC（システム・オン・チップ）の開発契約締結を発表
- Home Energy Management System による新たなエネルギーサービスの提供など、エネルギーサービスの取り組みを加速

Honda は、米国ネバダ州ラスベガス市で開催されている CES 2025 において、2026 年にグローバル市場への投入を開始する EV「Honda 0（ゼロ）シリーズ」の「Honda 0 SALOON（サルーン）」、「Honda 0 SUV」のプロトタイプを世界初公開するとともに、Honda 0 シリーズに搭載する独自のビークル OS 「ASIMO OS（アシモ オーエス）」を発表しました。



■ Honda 0 SALOON

CES 2024 で公開したコンセプトモデル「SALOON」を、2026 年の発売に向けて進化させたプロトタイプ。コンセプトモデルのデザインそのままに、一目見て他との違いを感じさせる低全高でスポーティーなスタイルと、外観からは想像できないほどの広い室内空間を両立しました。

シリーズのフラッグシップである Honda 0 SALOON は、新開発の EV 専用アーキテクチャーをベースに、Honda 0 シリーズの開発アプローチである「Thin, Light, and Wise. (薄い、軽い、賢い)」を具現化する数々の次世代技術を搭載します。CES 2025 ではその中でも、Honda が世界で初めて実用化した自動運転レベル 3 技術に裏打ちされる信頼性の高い自動運転技術や、ASIMO OS によりユーザー一人ひとりに“超・個人最適化”された移動体験など、Honda 0 SALOON における“Wise”の一端を紹介しています。

Honda 0 SALOON の量産モデルは 2026 年に北米市場へ投入し、その後、日本や欧州などグローバルへの展開を予定しています。

Honda 0 Series | WISE EXPERIENCE

<https://youtu.be/45QuCjxYq-s>



■ Honda 0 SUV

Honda 0 シリーズの第 1 弾となる、中型 SUV のプロトタイプ。CES 2024 で公開した、Honda が将来の EV で実現したい空間価値の考え方を示すコンセプトモデル「SPACE-HUB (スペース ハブ)」の考え方を踏襲しました。Thin, Light, and Wise.のアプローチを SUV に適用することで、空間の広さを一層拡張し、開放的な視界と自由度の高い広々とした居住空間を実現しました。

Honda 0 SALOON と同様、Thin, Light, and Wise.を具現化するさまざまな次世代技術を搭載します。ASIMO OS がもたらす、ユーザー一人ひとりに“超・個人最適化”され、進化し続ける空間価値やデジタル UX を実現します。さらには、Honda 独自のロボティクス技術で培った、3 次元ジャイロセンサーを用いた高精度の姿勢推定と安定化制御などにより、さまざまな路面環境において安心して意のままのダイナミクスを実現します。

Honda 0 SUV の量産モデルは、2026 年前半に北米市場へ投入し、その後日本や欧州などグローバル各地域へ展開していきます。

Honda 0 SUV

<https://youtu.be/4sIFhyG6cLc>



■ ASIMO OS

Honda 0 シリーズに搭載される Honda 独自のビークル OS が「ASIMO OS」です。

ASIMO は、Honda の基礎技術研究の一環として、人の役に立ち、社会の中で利用できることを目指して開発されたヒューマノイドロボットです。1986 年に研究開発を開始し、2000 年に発表された ASIMO は、その後長きに渡り世界中の皆様から愛され、2000 年から 2010 年代にかけてロボティクスの世界で象徴的な存在となりました。

Honda 0 シリーズも ASIMO と同様、「世界中の皆様に驚きと感動を与え、次世代 EV の象徴となることを目指す」という思いを込め、Wise の要となるビークル OS に“ASIMO”の名前を付けました。



Honda は、ASIMO の開発後も ASIMO の外界認識技術や人の意図をくみ取って行動する自律行動制御技術など、培ってきたロボティクス技術をさらに進化させてきました。Honda 0 シリーズでは、これらと先進知能化技術を融合することで、Honda 独自のソフトウェア定義ビークル（SDV）の価値を提供することを目指します。

ASIMO OS は、ソフトウェアプラットフォームとして、AD（自動運転）／ADAS（先進運転支援システム）や IVI（In-Vehicle Infotainment：車載インフォテインメント）などのクルマのシステムを制御する ECU（Electronic Control Unit）を統合的にコントロールします。

この ASIMO OS を基盤として車載ソフトウェアを常にアップデートすることで、移動に楽しさや快適性をもたらす空間価値やデジタル UX、人車一体の操る喜びを司る Honda 独自のダイナミクス統合制御などの機能やサービスを、車両を販売した後も、OTA（Over The Air）を通じ、ユーザー一人ひとりの嗜好やニーズに合わせて進化させていきます。

ASIMO OS は、Honda 0 SUV や Honda 0 SALOON の量産モデルを含む、Honda 0 シリーズの各モデルへの搭載を予定しています。

■自動運転（AD）技術

Honda は、2021 年に自動運転レベル 3（アイズオフ）：条件付自動運転車（限定領域）に適合する先進技術を有する「Honda SENSING Elite（ホンダ センシング エリート）」を搭載した「LEGEND（レジェンド）」を発売し、世界で初めて自動運転レベル 3 を実用化しました。

この実用化にあたり Honda は、世の中から交通事故の数を減らすことはもちろん、「人の運転であれば回避できた」というような事故は絶対に起こしてはならないという前提のもと、あらゆる運転条件や事象を想定し、Honda SENSING Elite を開発しました。

Honda は、このアイズオフ技術を普及させていくことが交通事故死者ゼロに繋がる道であると考え、Honda 0 シリーズを通じて、より多くのお客様の手が届く自動運転車をグローバルで提供していきます。

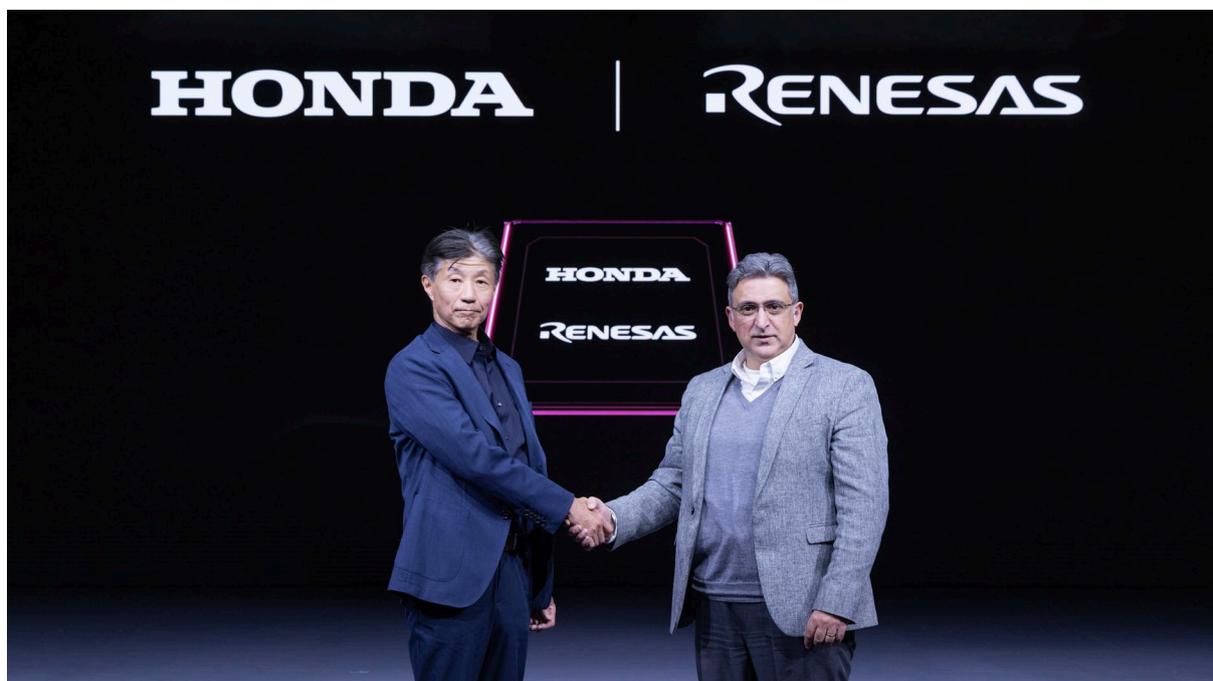
この実現に向けて、Helm.ai の「教師なし学習^{※1}」と、熟練ドライバーの行動モデルを組み合わせた独自の AI 技術により、少ないデータ量で AI が学習し、効率よく自動運転・運転支援範囲を拡大します。さらには、ヒトやモビリティの研究で培った Honda 独自の協調 AI を活用することで、人の運転でも難しい周囲の交通参加者との「譲り合い」といった協調行動の精度をより一層向上させます。これらの先進技術により、急な動物の飛び出しや落下物など、想定外の出来事に対しても素早く適切に対処できる、信頼性の高い運転支援を実現します。

Honda 0 シリーズでは、まず高速道路での渋滞時アイズオフから自動運転技術を搭載し、OTA による機能アップデートを通じて、運転支援・自動運転レベル 3 適用の範囲を拡大していきます。自動運転レベル 3 では、運転主体が人からクルマへと変わり、映画鑑賞やリモート会議など、これまでにはできなかった「ドライバーによる移動中のセカンドタスク」が可能となります。Honda は、この技術を進化させることで、世界に先駆けて全域アイズオフを実現し、移動の新たな可能性を切り開きます。

※1 AI を支える技術である機械学習の手法の一つ。入力データに対してどのような正解を導き出すかを学習させる「教師あり学習」と異なり、機械に正解を与えずに学習させ、自力でデータの規則性や特徴を導き出す学習方法

■ Honda 0 シリーズ専用 SoC の開発

Honda は、Honda 0 シリーズの目指す SDV を実現するため、ルネサス エレクトロニクス株式会社（以下、ルネサス）と、コア ECU 向け高性能 SoC（システム・オン・チップ）の開発契約を締結したことを、「CES 2025 Honda プレスカンファレンス」にて発表しました。



2020 年代後半に投入する次世代の Honda 0 シリーズの E&E アーキテクチャーは、クルマのシステムを制御する役割を持つ複数の ECU をコア ECU に集約するセントラルアーキテクチャー型を採用します。

SDV の中心となるコア ECU は、AD/ADAS といった運転支援やパワートレイン制御、快適装備など、車両のさまざまなシステムを一元的に管理します。そのため、コア ECU にはより高性能な SoC が必要となりますが、これには従来に比べて高い処理能力が必要となるほか、それに伴う消費電力の高まりを抑制することが求められます。

これに対応するため、ルネサスの汎用車載半導体である第 5 世代「R-Car X5 シリーズ」SoC に、Honda 独自の AI ソフトウェアに最適化された AI アクセラレータを、マルチダイチップレット技術^{※2}により組み合わせたシステムを実現します。この組み合わせにより、AI 性能としては業界トップクラスの 2,000 TOPS^{※3}（Sparse）を 20 TOPS/W の電力効率で実現することを目指します。

※2 異なる機能を持つチップ（ダイ）を複数組み合わせて 1 つのシステムを構築する技術

※3 TOPS は Tera Operations Per Second の略。整数演算を 1 秒あたり何兆回できるかを示す数値で AI 処理の性能を表す単位。本ターゲット数値は、sparse（疎）AI モデルを実行した値

■エネルギーサービス

Honda 0 シリーズを、環境に負荷をかけることなく、自由な移動の喜びとともに提供するために、「ストレスフリーで自由な移動の実現に向けた充電網の構築」、「EV バッテリーを活用したクリーンでスマートな EV ライフの提供」という 2 つの軸による新たなエネルギーサービスを展開します。

充電網の構築にあたっては、Honda 0 シリーズのユーザーが充電で困ることのない世界の実現を目指し、北米において、自動車メーカー 8 社^{※4}による合弁会社「IONNA (アイオナ)」を通じ、2030 年までに 3 万口の高品質な充電網を構築します。これに加え、Honda 0 シリーズの充電ポートに北米充電規格 (NACS : North American Charging Standard) を採用することで、2030 年には、Honda 0 シリーズのユーザーが約 10 万口の充電網を使用できる環境を構築すべく、充電網の拡大を進めます。

さらに、Honda 0 シリーズの投入に合わせて、この広い充電網を有効に活用した新たな充電サービスの提供も検討しています。このサービスでは、Honda の智能化技術に、アマゾン ウェブサービス (AWS) の生成 AI「Amazon Bedrock」などの技術を組み込み、Honda 0 シリーズや広い充電網から得られるデータを分析することで、充電設備の検索や支払いのシンプル化などの面で、一人ひとりにパーソナライズされた充電体験を提供することを目指します。

カーボンニュートラルの実現に向けては、EV の普及促進とともに、再生可能エネルギーのさらなる利活用が不可欠です。EV の全充電シーンの約 8 割を占める^{※5}と言われる自宅充電において、Emporia Corp.と共同開発している「Home Energy Management System (ホームエネルギー マネジメント システム)」に、Honda と BMW、Ford との合弁会社「ChargeScape (チャージスケープ)」の VGI (Vehicle Grid Integration) システムを組み合わせ、北米で展開している EV 向け充電サービス「Honda Smart Charge」を一層進化させます。これにより、電気代と CO₂ の削減に貢献する新たなサービスを、2026 年以降、順次北米市場などで開始します。

このサービスにおいて Honda 0 シリーズの車両は、仮想発電所 (Virtual Power Plant) として機能し、ユーザー一人ひとりに最適化された充電計画を実行します。具体的には、電気代が安く、再生可能エネルギーを活用できる時間帯を選んで充電を行い、電気代が高い時間帯は家庭向けに放電することで、家庭全体の電気代を賢くマネジメントします。さらに、電力が不足している時には、充電した電力を電力系統へ供給することで、電力の安定化に貢献するとともに、EV から収入を得ることも可能となります。また、充放電を繰り返すことで懸念されるバッテリーの劣化も、ハイブリッド車で培ったバッテリーマネジメント技術により最小限に抑制します。

※4 Honda の米国現地法人であるアメリカン・ホンダモーターと、BMW グループ、ゼネラルモーターズ、ヒョンデ、キア、メルセデス・ベンツグループ、ステランティス N.V.、トヨタ自動車

※5 Honda 調べ

CES 2025 Honda プレスカンファレンスは、以下の URL からご覧いただけます

<https://youtube.com/live/3M87dqNbY3U>